

新漁具漁法開発試験

(サヨリ2艘曳網試験操業)

菊谷尚久

はじめに

サヨリは高級魚として知られ、全国的にはサヨリ2艘曳網など本種を対象とした漁業が営まれているが、青森県では沿岸域周辺にサヨリは生息しているものの、混獲等を除けば本種を対象とした本格的な漁業は行われていない現状にある。

このため、サヨリ2艘曳網を用いた試験操業を実施することにより、未利用資源であるサヨリを対象とした漁業の可能性を検討する。

材料と方法

1. 調査場所

鯺ヶ沢町、三沢市、今別町

2. 調査船

鯺ヶ沢地区

寿丸（船主：小山内輝二、7.07トン、D90馬力）

第18大磯丸（船主：今忠夫、6.83トン、D120馬力）

三沢地区

ゆうゆう丸（船主：富田由廣、4.90トン、D80馬力）

第7高栄丸（船主：高橋政志、4.90トン、D90馬力）

今別地区

第八幸栄丸（船主：川口順一、4.70トン、D70馬力）

第十八幸栄丸（船主：川口順一、4.90トン、D70馬力）

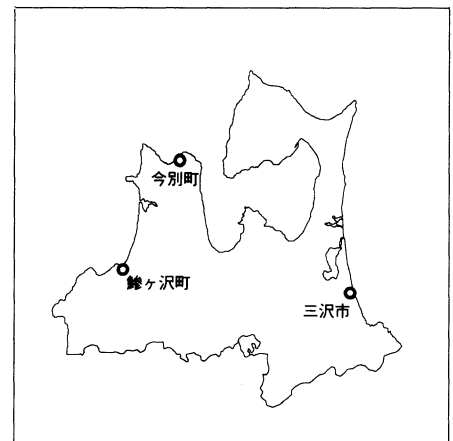


図1 調査場所

3. 調査期間

春季調査

鯺ヶ沢地区：平成11年4月1日～平成11年6月30日

三沢地区：平成11年6月1日～平成11年6月30日

今別地区：平成11年6月1日～平成11年6月30日

秋季調査

鯺ヶ沢地区：平成11年9月1日～平成11年11月30日

今別地区：平成11年9月1日～平成11年11月30日

4. 操業海域

鯺ヶ沢地区：西共第16・18号共同漁業権漁場

三沢地区：東共第14号共同漁業権漁場

今別地区：西共第30号共同漁業権漁場

5. 使用漁具

図2に示すサヨリ2艘曳網を作製して使用した。

6. 漁獲状況等

操業状況については操業野帳への記入により把握した。また、漁獲されたサヨリの一部については魚体測定を実施した。

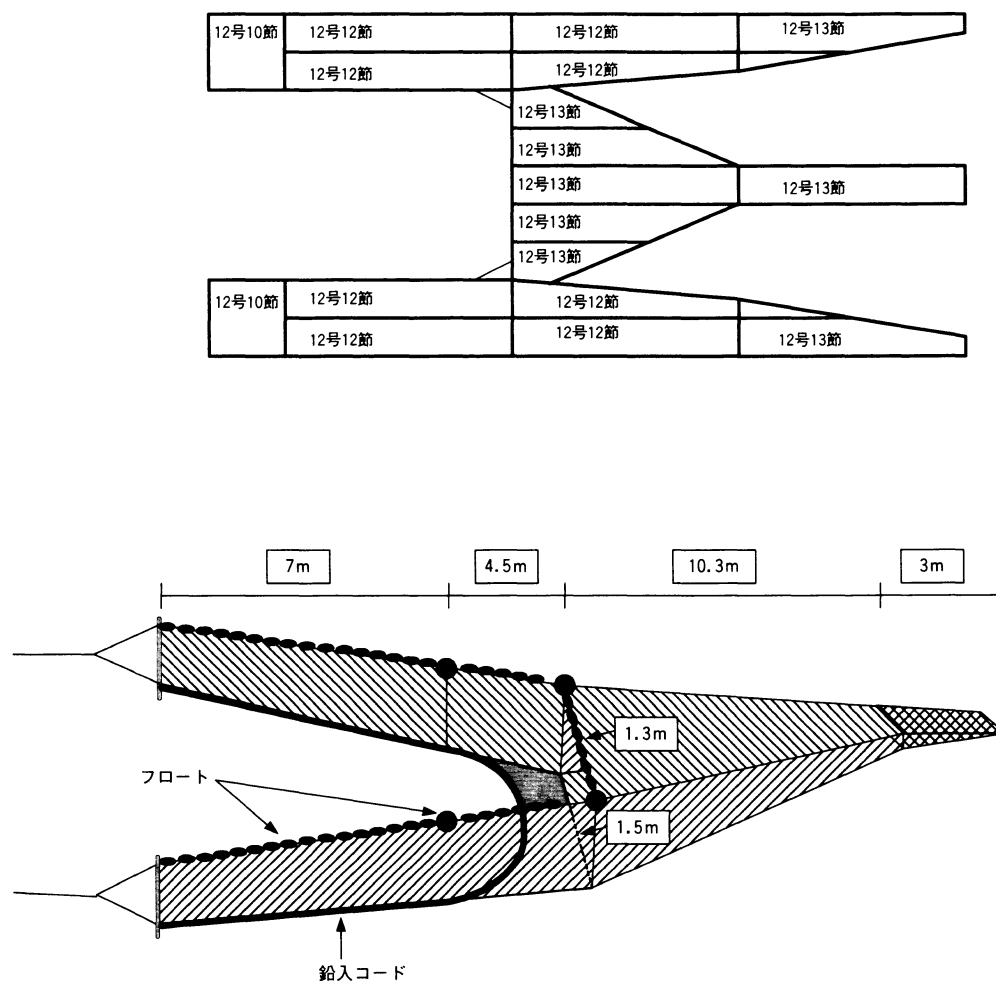


図2 サヨリ2艘曳網漁具図

結 果

1. 操業及び漁獲の状況

試験操業の状況を表1に、水揚げ状況を表2にそれぞれ示した。

サヨリの漁獲状況は、春季調査では、鯉ヶ沢地区では5日間で延15回の操業を実施し23尾の漁獲、三沢地区では1日、延3回の操業で18.0kgの漁獲があった。今別地区では1日、延2回の操業で1尾のみの漁獲であった。秋季調査では、鯉ヶ沢地区では2日間で延6回の操業を実施し3尾の漁獲、今別地区では2日間で延4回の操業を実施し7.5kgの漁獲があった。

水揚げは春季調査の三沢地区と秋季調査の今別地区においてそれぞれ1日のみ行われ、三沢地区では18kg、14,313円、今別地区では4kg、400円の水揚げを行った。

表1 試験操業結果

地 区	鯔ヶ沢	鯔ヶ沢	鯔ヶ沢	鯔ヶ沢
操業年月日	1999/4/6	1999/4/12	1999/4/16	1999/4/20
操業時間	5:00~7:45	9:20~11:30	11:00~12:30	9:50~11:05
操業場所		鳴沢川、中村川河口周辺	鳴沢川、中村川河口周辺	赤石川河口周辺
水深 (m)	5~15	3~15	3~15	5~15
表面水温 (℃)	8.6	8.5	9.8	9.9
曳網速度 (ノット)	2~3	2~3	3	2
操業回数	1	4	2	3
漁獲重量 (kg)	0尾	0尾	1尾	22尾
混獲の状況	サケ稚魚 (1尾)	サケ稚魚 (2尾)	サケ稚魚 (1尾)	サケ稚魚 (4尾)

地 区	鯔ヶ沢	鯔ヶ沢	鯔ヶ沢	鯔ヶ沢
操業年月日	1999/4/27	1999/6/2	1999/9/6	1999/9/21
操業時間	10:20~11:35	9:40~10:50	10:20~11:35	9:20~11:30
操業場所	赤石川河口周辺	鳴沢川、中村川河口周辺	赤石川河口周辺	赤石川河口周辺
水深 (m)	10~20	5~15	10~20	10~21
表面水温 (℃)	11.4	17.3	-	-
曳網速度 (ノット)	2	2	2~3	2~3
操業回数	3	2	2	4
漁獲重量 (kg)	0尾	0尾	3尾	2尾
混獲の状況	サケ稚魚 (9尾)	なし	ダツ(33尾)、シイラ(1尾)	ダツ(22尾)

地 区	三 沢	今別	今別	今別
操業年月日	1999/6/1	1999/6/30	1999/9/28	1999/11/25
操業時間	5:00~7:45	5:10~7:05	6:20~8:30	7:10~9:00
操業場所	高瀬川河口周辺	今別東部漁協沿岸	今別東部漁協沿岸	今別東部漁協沿岸
水深 (m)	4	10~20	10~30	20
表面水温 (℃)	11.7	16.8	21.5	-
曳網速度 (ノット)	4~5	3~3.5	3	3
操業回数	3	2	2	2
漁獲重量 (kg)	18.0	1尾	0尾	7.5
混獲の状況	なし	なし	ダツ(58尾)、ヒメウナ(33尾) アジ(1尾)、カサチウソ(3尾)	なし

表2 サヨリ水揚げ結果

地 区	水揚げ年月日	水揚げ重量 (kg)	平均単価 (円/kg)	水揚げ金額 (円)
三 沢	1999/6/1	2.3	1580	3,634
		2.3	1530	3,519
		9.2	550	5,060
		4.2	500	2,100
	合 計	18.0	795	14,313
今 別	1999/11/25	4.0	100	400

2. 魚体測定結果

サヨリの魚体測定結果を表3及び図3に示した。測定されたサヨリの全長範囲は、春季調査では22.5～33.8cmの範囲に秋季調査では13.9～37.9cmの範囲にあった。

考 察

全国的なサヨリ漁の状況を見ると、冬季～春季にかけて行われる海区が多いものの秋季を漁期とする海区もみられている。¹⁾

今回の春季調査では3地域とも産卵群と思われる¹⁾²⁾大型のサヨリが確認され、2艘曳網による漁獲が可能であることがわかった。一方、秋季調査においてはサヨリの漁獲はあったものの小型の当歳魚が中心であった。秋季の小型魚は春季の大型魚に比べて平均単価が非常に安く(表2)、操業に見合うだけの水揚げが得られ難いと考えられることから、青森県におけるサヨリ漁は春季の大型魚を対象とすべきであろう。

また、小川原湖内で漁獲されているサヨリの実態調査を実施したところ、小川原湖で漁獲されているサヨリは従来言われてきたクルマサヨリではなく沿岸で普通に見られるサヨリであることが判明し、沿岸から小川原湖内に産卵回遊しているものと推察された。このため、三沢沿岸で漁獲されるサヨリは小川原湖内で漁獲されるものと同一の資源である可能性が高く、新漁業として成立するかどうかについては小川原湖周辺のサヨリの生態について詳しい調査をした後に判断する必要がある。

また、今別地区でのサヨリ2艘曳網漁業を考えた場合、春季では当該地区における主力漁業であるイカナゴ棒受け網漁業と漁期が重なるため操業の実施が困難な場合が考えられる。

表3 サヨリ魚体測定結果

場 所	漁獲年月日	n	全長(cm)			平均体重(g)
			平均	最大	最小	
鯉ヶ沢	1999/4/16	1	26.0	-	-	48.0
鯉ヶ沢	1999/4/20	8	28.2	33.1	24.4	72.8
鯉ヶ沢	1999/9/6	3	25.4	37.9	13.9	23.3
鯉ヶ沢	1999/9/21	2	22.5	31.1	13.9	38.5
三 沢	1999/6/1	5	26.6	33.8	22.5	63.2
今 別	1999/6/30	1	34.0	-	-	120.0

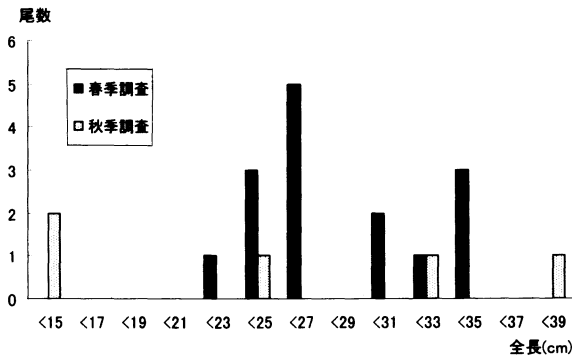


図3 サヨリの全長組成

文 献

1) 辻 俊宏・貞方 勉(2000):我が国におけるサヨリ漁業の実態. 石川県水産総合センター研究報告, 2: 1-11.

2) 吉沢良輔(1996):新潟県におけるサヨリの産卵期と卵・稚仔の分布. 日本海ブロック試験研究集録, 33: 1-8.